



ミスコングランプリ

美男美女カップルの

奴隸になった僕

マゾ男

第二章

第四話「お友達とのランチ」

退院後！。

僕のアパートは週2回ほど

ホテルとしてご利用いただいている。


大体夕方頃に来られて、僕のベッドの上でセックスを楽しんでいる。

その間、僕は玄関から動くことは許されず、

買い出しとしてコンビニにパシられる以外は

コンクリートの玄関で正座していなければならぬ。





てか講義始まるからもう行く。
ベッド掃除しておいていね。

使用済みのコンドームもその辺に落ちてるから、
ちゃんと片付けておけよ。

みかん

ウケる。一発でノックアウト。
てか叫び声すごくない？
マゾだから気持ち良いのかな(笑)

ほんとうるさ(笑)
ねえ、潰れたの？

う
ぎゃ
ぎゃ

あ
あ
あ
あ



おーい。誰が気絶して良いって言った？
まだ漬れてないでしょお？
起きろってば。

靴のまま蹴ったら結構靴汚れちゃったな。
こいつに新しいの買わせないと。



ゆき様

既読
15:20

先日は遅刻をしてしまい
大変申し訳ございません
でした。

既読
15:20

また躰としてランチいただき
感謝いたします。

今日



着いた？
奥に公衆トイレあるから
そこで下着姿で正座してて。

19:57



あ、どういえば3回くらい風呂入ってわーや(笑)
まあお前は便器だから関係ないけどさ。


おえ

おえっ
おえっ

おえ
おえ

おえおえ言っでわーで、奥まで挿えろよ。
てめーは便器なんだからよ。自覚しろよカマ。

よし、そろそろイクわ。
俺の精子ありがたく飲めよ。



まじで言ってるの？
普通の男ならもう立ち直れないレベルだよ？
お前は感謝してるわけ？

ウケる(笑)
やっぱお前はキチガイ変態だね。
だから興奮して貞操帯いじってたわけだ。